(一財)日本建築総合試験所

建築技術性能証明 評価シート

【技術の名称】

NS構法

ースプリットティ引張接合による角形鋼管柱とH 形鋼梁との剛接合構法-(改定 6) 性能証明番号: GBRC 性能証明 第 07-15 号 改 6 性能証明発効日: 2024 年 7 月 24 日

【取得者】

パナソニックホームズ株式会社

【技術の概要】

本技術は、スプリットティ引張接合による角形鋼管柱と H 形鋼梁との剛接合構法である。本構法では、外径150mm~300mmの角形鋼管仕口の内側に、先付けナットを取り付けた補強裏板を配置するか、または補強裏板を配置せず、ティフランジと角形鋼管フランジを高力ボルトによって引張接合するとともに、ティウェブと、カバープレートが隅肉溶接で補強接合されたH形鋼梁フランジを高力ボルトによって摩擦接合する。補強裏板の要の有無によって摩擦接合する。補強裏板の要がは角形鋼管柱の径と板厚および取りつく梁の有無によって決められている。最上階では、梁下端側はスプリップレートを用いた高力ボルトによる摩擦接合としている。

【改定の内容】

新規: GBRC 性能証明 第 07-15 号 (2007 年 9 月 4 日) 改定 1: GBRC 性能証明 第 07-15 号 改 (2013 年 5 月 21 日)

- ・適用する柱の材質に TSC295 を追加
- 設計施工要領書の表記修正

改定2:GBRC 性能証明 第07-15号 改2 (2015年2月3日)

- ・角形鋼管柱サイズ:外径200mm 板厚9mm および16mm を追加
- ・引張ボルト仕様:外径 250mm~300mm の角形鋼管柱の 場合に S10T を追加

改定3:GBRC性能証明 第07-15号 改3(2016年7月12日)

- ・角形鋼管柱サイズ:外径 250mm 板厚 16mm を追加
- ・梁スパン:外径250mm 板厚16mmの柱に接続する梁H-450×200×9×14の最小スパンを4.5mから3.6mに緩和

改定 4:GBRC 性能証明 第 07-15 号 改 4 (2018 年 1 月 19 日) ・補強裏板の幅:230mm から 210mm に変更(角形鋼管柱 サイズ外径 300mm 板厚 16mm)

改定5:GBRC性能証明第07-15号改5(2019年9月13日)

- ・左右の梁せいが異なる場合を追加
- ・申込者の社名変更

改定 6:GBRC 性能証明 第07-15号 改 6 (2024年7月24日)

- ・補強裏板の側面配置の変更
- ・梁スパンの最小値:梁H-250×125×6×9について2.7mから1.8mに緩和、梁H-300×150×6.5×9について2.7mから2.4mに緩和、梁H-350×175×7×11について2.7mから2.55mに緩和、梁H-400×200×8×13について3.6mから3.15mに緩和、梁H-450×200×9×14について3.6mから3.3mに緩和(角形鋼管柱サイズ外径250mm板厚16mmに限る)、梁H-450×200×9×14について4.5mから3.75mに緩和(角形鋼管柱サイズ外径300mm板厚16mmに限る)
- ・階高の最大値: 3.1mから3.6mに変更
- ・角形鋼管柱仕様:STKR400 を削除
- ・摩擦ボルト仕様:トルシア形超高力ボルト(大臣認 定品)を削除
- ・角形鋼管柱サイズ : 外径 175mm 板厚 12mm、外径 250mm 板厚 12mm、外径 300mm 板厚 12mm を削除
- ・補強裏板の表の最小長さ(Lr)の値の修正

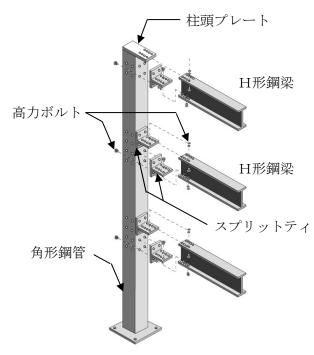
【技術開発の趣旨】

鉄骨造建築物で多用されている溶接接合によると、溶接技能者の技量など人的要因によって、接合部の耐震性能が大きく影響を受ける恐れがある。本構法は、そのような問題解消を意図して開発されたものである。

【性能証明の内容】

本技術についての性能証明の内容は、以下の通りである。

申込者が提案する「NS構法 設計施工要領書」に従って設計・施工された角形鋼管柱H形鋼梁接合部は、同要領書で規定する長期荷重時および短期荷重時の剛性と耐力ならびに終局耐力を有する。



NS構法は、スプリットティを用いた引張接合による角形鋼管柱とH形鋼梁との剛接合構法である。

図-1 構法概要図

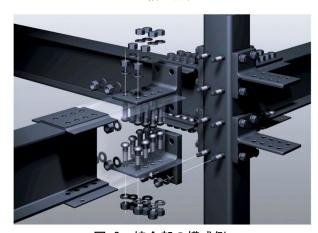


図-2 接合部の構成例

【本技術の問合せ先】

パナソニック ホームズ株式会社 担当者:福田 航麻 〒560-8543 大阪府豊中市新千里西町 1-1-4

E-mail: fukuda.koma@panasonic-homes.com

TEL: 06-6834-1471